

1. 厳しい残暑

8日の立秋から、10日が経過しましたが、まだまだ厳しい残暑が続いています。

先月の27日に、国連のグテーレス事務総長が、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代に入った」と表現され、世界的な気温の上昇や異常気象に、最大の危機感を示されました。それを象徴するかのよう、今年の夏は猛暑日が続き、熱中症アラートが毎日のように発表されています。

週明けに台風7号が上陸し、学校からも様々な被害報告を受けています。子どもの安全にかかわることは、適宜対応していきます。

夏休み期間中、中学校や高校では運動部活動など、熱中症に最大の注意を払い、活動いただいています。残り、一週間余り休みは続きますが、引き続き、子どもの命を守るために、最善の取組をお願いします。

2. 奈良市子ども会議

今年で9回目となる「奈良市子ども会議」が、7月下旬から8月にかけて5回にわたり開催されました。

この会議は、平成27年に施行された「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」に基づくもので、条例の基本理念は、「子どもが権利の主体として尊重される」ことをすべての組織の基礎とすることにあります。学校においても、「子どもの成長及び発達に応じ、その思いや意見に耳を傾け、子どもの最善の利益を第一に考慮すること」が求められています。

会議では、市内の小学校・中学校・高校生から参加者を募り、小グループに分かれ、「子どもにやさしいまちづくり」についてテーマごとに自由に意見を出し合い、アイデアを市長に提案します。

昨年、ロート奈良鴻ノ池パークで開催した「移動あそび場」も、この会議で提案された企画が実現したものです。

今年は、5つのテーマで話し合われました。

- ①「みんなが自分らしく生きられる社会（学校や地域など）について考えよう！」
- ②「お年寄りと子どもの交流について考えよう！」
- ③「子どもの権利について考えよう！」
- ④「SNSやゲームとの関わり方について考えよう！」
- ⑤「新しいクリーンセンターをどんな場所にしたいか考えよう！」

今日の午前中に、代表の子どもたちによる市長への報告会があり、私も出席しましたが、特に「子どもの権利」についての議論が興味深かったです。子どもの権利条約の「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」の4つの権利のうち、参加する権利を行使するため、意見を表明する機会を確保してほしいという内容でした。

私自身、学校現場にいた時に校則はそもそも必要なのか、生徒会で2年間にわたり考えてもらったことを思い出しました。この取組は、子どもの自主性を育むことに役立ったと思います。当時、職員室では「子どもに教えなければならないこと」や「子どもに考えさせること」について熱い議論が交わされていました。

今回の子ども会議をきっかけに、各学校で子ども主体の学校づくりや、意見表明の機会が確保できているか、議論してほしいと思います。

みなさんの学校では、「子ども主体」に本当に子どもの意見を学校運営に取り入れる体制ができていますか。発達段階もあり、やり方には工夫が必要ですが、今一度、子どもの思いや意見に耳を傾ける体制を見つめ直し、子ども主体の学校づくりを進めてください。

3. 奈良市の英語スローガン

みなさんは、「Old History, New Discovery. (オールドヒストリー、ニューディスカバリー)」という言葉聞いたことがありますか。これは、奈良市が奈良の魅力を発信するために作成した「奈良市の英語スローガン」です。

このスローガンは、一条高等学校附属中学校の生徒が作成に携わりました。ファシリテーターチームによる2回のワークショップをとおして、1人約12本のスローガン開発に挑戦し、最終、計1000本以上のスローガンが考案されました。その後、奈良で観光に関わる方や海外出身の方のヒアリングなどをとおして、このスローガンが最終決定されました。

奈良と言えば、世界遺産や豊かな自然、古い歴史をもつ一面がフォーカスされます。その中、富雄丸山古墳で日本最大の蛇行剣と盾形銅鏡が出土したり、地域に根差した魅力的なイベントが開催されたりするなど、新しい発見や一面がたくさんあります。奈良を訪れる方々に、このような「New」と「Old」のコントラストを楽しみながら、宝探しのように旅をし、何度も訪れてほしい。また、奈良に住んでいる地元の方々にも、「New Discovery (新しい発見)」に目を向け、生活する中で気づかなかった新たな奈良の魅力を再認識し、街への愛着をさらに高めるきっかけになってほしい。そんな思いから、このスローガンは生まれました。

10年後・20年後、子どもたちが奈良市民として奈良市を担う前提で取組が進められ、子ども達の発想を基にしている点では、子ども会議と同じです。

このスローガンは、新大宮駅や西大寺駅のデジタルサイネージで全面的に放映され、Instagram (インスタグラム) にも専用アカウントを開設し、魅力を配信しています。また、子どもたちのChromebookに表示される「ICTポータルサイト」にも掲載する準備をしています。2学期に、子ども達に紹介し、奈良の魅力を再発見する機会とするなど、各学校で活用してください。

4. 充実した2学期に

時代に沿った教育や未来を見据えた教育を行うには、教員がロールモデルとなり、子どもたちの意欲を引き出すことにあります。教員がロールモデルになるという意味では、リーダーである校長がマネジメントし、学校づくりをしている姿を見せてください。臆することなく、世界・社会に挑む姿を大人が見せたとき、子どもの意識も変わります。

コロナウィルス感染症が5類になり、コロナ禍前の生活に戻りつつある中、各学校では、2学期に体育大会や文化発表会、音楽会などの行事が計画されていると思います。それぞれの取組が、子どもを主人公にした、主体的な学びに結びつく活動となるように取り組んでください。

併せて、長期休業明けは、児童生徒の自殺のリスクが高まる傾向があります。文部科学大臣からもメッセージが出されていますが、2学期のスタートに不安を抱く心配のある児童生徒の状態を、教員が適切に見取り、関係部署と連携しながら組織的に対応してください。

重ねて、これまでの前例にとらわれることなく、行事の見直しも大胆に進めて欲しいと思います。国の調査でも、行事を見直すことで、行事に関わる学習の時間や、準備に要する時間が減り、教員の負担軽減に繋がっています。各学校でも、積極的に見直しを進めてください。

2学期が充実した学期となるよう、新たな気持ちで学校経営をよろしく願います。